

組織

鹿沼建具商工組合

第53回通常総会

建具産地の情報発信を強化

鹿沼建具商工組合（白石修務理事長）は5月26日、栃木県鹿沼市の鹿沼商工会議所中会議室で第53回通常総会を開催した。

通常総会は梅宮信一理事の司会で進行。鈴木伴典副理事長の開会の言葉に続き、白石理事長が挨拶。「日本経済はアベノミクス開始から5年が経過し、輸出を中心に良い状況にある。しかし、足元の地方の中小企業は人手不足や後継者不足で厳しい環境だ。我々の業界も決して楽な展開ではない。建具産地としての形成をどうするかを考える必要がある。鹿沼組子はPRの効果があって、店舗内装や商品パッケージへの採用、組子講習会の依頼増加など各方面から話が来ている。東京都足立区のデ

パートでも期間限定で鹿沼の木製品を取り上げてもらえることになった。こうした地道な活動が木製品の需要増加につながる。今期も事業を進め、会員増加につながるよう努力する。鹿沼組子以外にも、梅宮理事が木製建具製作として鹿沼の名匠として認定を受けた。現在、梅宮氏を栃木県の伝統工芸士として申

請しているが、申請が通れば建具を広く知らせることができる。鹿沼の木工業のイメージアップになる取り組みを続けていく」と、建具産地として鹿沼の木工業の隆盛に尽力していく姿勢を打ち出した。

総会の議長には大貫寿夫理事を選出。本人出席17名、委任状出席14名の出席を確認し、過半数の出席があることから総会成立を宣言。第1議案から第7号議案までを協議した。

平成29年度事業報告では、昨年度に実施した事業内容を説明。年間10回に渡って各地で行った組子教室、海外メディアや大学生からの取材対応、鹿沼ウッドインフィル有責任事業組合の諸行事への参加、鹿沼市ビジネスマッチャや東京東信用金庫主催の展示会の出展など、対外的な情報発信を軸に活動。この他、組合

員の親睦、市役所への報告と届出、役員会や運営協議会の開催など、年間を通じて行った組合活動の詳細を語った。監査報告は加藤吉弘監事が発表。剰余金処分額は利益準備金、別途積立金、創立60周年事業積立金に各10万円を充当し、残りを次期繰越金とする案を可決した。

平成30年度の事業計画は鹿沼商工会議所木材木工部会との合同視察研修会の実施、全国建具フェアさいたま大会の見学、組子教室の実施、鹿沼の建具PR事業など、教育研修や対外情報発信を企画。また、鹿沼ウッドインフィルを始めとする新製品開発事業、展示販売事業、森林認証材の研究など、将来への投資も含めた事業も展開していく。通常総会では全議案を可決承認。藤田雄一副理事長の閉会の言葉で総会は終了した。

の大和屋本店にて第51回通常総会を開催した。

組織

全国木工機械商業組合

第51回通常総会

創立50周年事業の準備を推進

全国木工機械商業組合（桑原征人

理事長）は5月25日、愛媛県松山市

総会は安塚公紀事務局長の司会で進行。出席者の確認では、本人出席37社38名、委任状出席46名の合計84名の出席を確認。定員107名の過半数を上回り、総会の成立を宣言した。定時総会は福本寛之副理事長